

(第43号) ***図書館の施設について***

前号でご紹介したとおり、1972年に現在の本館が建てられた際、書庫は館員だけが出入りをする閉架式で、天井が低いため薄暗く通路も狭い造りとなりました。狭い敷地に必要最小限の部屋を設けることになり苦心された様子が当時の資料に記されています。4層の本棟と通じる1階、3階と、B、M1~M4、Rの8層構造で、30~40年先を見据え、20万冊収容可能なスペースが確保されたものです。BはBasement、RはRoofであることはよく知られていますが、なじみの薄いMはMezzanineの略で、階と階との間という意味です。日本語にも中2階などの表現がありますが、M3階=3rd floor mezzanine(3階と4階の間のフロア)という、本学の教育研究の中心としての建物を意識した国際的表示となりました。

本棟2階ロビーには論語より「学而不思則罔 思而不学則殆」の1条が掲げられ、初代学長 三田定則先生の胸像(舟越保武作)や、第4代学長 篠田紘先生寄贈のアテネ テミストクレス城壁のレリーフなどを展示し、アカデミックな雰囲気のリフレッシュメントホールが演出されました。一時は丸善売店やコーヒースタンド(そのカウンターテーブルを現3階カウンターとして使用)、自動販売機が置かれ、飲食や喫煙もできる談話室のような場でしたが、管理上の不都合から撤廃され飲食も厳禁となり現在に至ります。2006年からは医療情報コーナーを設置し、一般市民も利用可能な新たな空間として着実に拡充されているところです。

1階には、玄関を入ってすぐに古書や事務文書などを保管している閉架書庫があり、隣接する館長室には、図書館学関係の図書や整理中の古医書などが別置されています。他に、岩手医学会、学術研究用のセミナー室、PC完備の情報教室、蔵書の製本作業用の製本準備・荷捌室などがあります。2階事務室では主に施設・蔵書管理や受入目録業務を行っており、寄贈資料の受け付けや研究費購入資料の受渡し、施設利用の窓口となります。2階、3階の閲覧室は論文の閲覧や自習に利用され、古い索引誌・抄録誌などが配架されています。3階カウンターは、資料の貸出・返却の他、図書館の利用の仕方や資料の調べ方の説明や、学外文献の受け渡しなどの相互貸借業務の窓口となっています。4階のスタディールームは、PBLやグループ学習など学生用に設置されています。時間や設備などの詳細は、[図書館HP](#)をご覧ください。学内限定ページでは、施設の予約状況も掲載しております。

37年の年月と共に狭隘化、老朽化が進んでいますが、創立以来の悲願であった本格的図書館への思い入れがあちこちに垣間見られます。来館の折には、図書館や大学の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

図書館トリビア

「リサーチ・ナビ」という“調べ方のヒント”を提供するWebサイトを国立国会図書館がH21年5月に公開しました。どんな資料を見たらよいか、どのデータベースを使ったらよいか分からない・・といった時に、目的や分野別の説明リンクをたどることで、効率よく求める情報に行きつくことができます。またページ上方のボックスに思いついたキーワードを入力すると、調べものに役立つ本やサイト、百科事典での用語説明、関連語の概念図なども表示され、思いがけない発見にも期待できます。ぜひ一度お試してください。

リサーチ・ナビ <http://rnavi.ndl.go.jp/>

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 circ2303@lib.iwate-med.ac.jp まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館